

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
貯蔵品は、総平均法による原価法によっている。
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法  
満期保有目的の債権は、償却原価法(定額法)によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法  
定率法による。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	1,500,000	0	0	1,500,000
投資有価証券	1,013,323,432	100,300,000	100,018,819	1,013,604,613
小計	1,014,823,432	100,300,000	100,018,819	1,015,104,613
特定資産				
公益事業積立資産	21,447,304	0	8,795,895	12,651,409
小計	21,447,304	0	8,795,895	12,651,409
合計	1,036,270,736	100,300,000	108,814,714	1,027,756,022

### 3. 基本財産及び特定資産の財源の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	1,500,000	(0)	(1,500,000)	
投資有価証券	1,013,604,613	(1,003,200,000)	(10,404,613)	—
小計	1,015,104,613	1,003,200,000	11,904,613	0
特定資産				
公益事業積立資産	12,651,409	(12,651,409)	(0)	—
小計	12,651,409	(12,651,409)	(0)	—
合計	1,027,756,022	(1,015,851,409)	(11,904,613)	—

#### 4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	468,405	468,402	3
合計	468,405	468,402	3

#### 5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

種類及び銘柄	帳簿価額	時価	評価損益	備考
ムラヨ-ロッパファイナンス エヌアイ No.48063	200,000,000	199,060,000	△ 940,000	100円当り99.53円
ムラヨ-ロッパファイナンス エヌアイ No.42655	200,000,000	182,100,000	△ 17,900,000	100円当り91.05円
ムラヨ-ロッパファイナンス エヌアイ No.42664	100,000,000	96,420,000	△ 3,580,000	100円当り96.42円
シルフリミテッドシリーズ 50409	300,000,000	298,080,000	△ 1,920,000	100円当り99.36円
ザ・ゴールドマン・サックス・グループ ブ・インク PRD債	100,000,000	72,968,000	△ 27,032,000	100円当り72.968円
SGイシュー(0135-9044)	100,000,000	77,120,000	△ 22,880,000	100円当り77.12円
第3回ソフトバンクグループ利払繰延・期 限前償還条項付無担保社債	10,404,613	9,674,600	△ 730,013	100円当り96.746円
合計	1,010,404,613	935,422,600	△ 74,982,013	

※ 満期まで保有の場合、元本割れのリスクは発生しない。

#### 6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

内容	金額
経常収益への振替額	
基本財産受取利息	19,218,873
基本財産受取配当金	2,900,000
合計	22,118,873

#### 7. その他

##### 金融商品の状況

##### (1) 金融商品に対する取組方針

当法人は、公益目的事業の財源の相当部分を運用益によって賄うため、債券、株式、投資信託により資産運用する。なお、デリバティブ取引は行わない方針である。

##### (2) 金融商品の内容及びリスク

投資有価証券は、債券、株式、投資信託であり、発行体の信用リスク、市場価格の変動リスクにさらされている。

##### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 資産運用規程に基づく取引

金融商品の取引は、当法人の基本財産管理規程に基づき行う。

##### ② 信用リスクの管理

債権については、発行体の状況を定期的に把握し、理事会に報告する。

##### ③ 市場リスクの管理

株式については時価を定期的に把握し、理事会に報告する。

投資信託については、関連する市場の動向を把握し、運用状況を理事会に報告する。